

第2回境島小学校学校規模適正化検討地区委員会意見集約結果

1 行政区住民の意見等（区長報告）

新野新田区 ※区3役と隣組長12人による会議を開催

P T A（児童の保護者）の「学校の統合やむなし」という意見を最大限に尊重し、区として支援していきたい。

境平塚区 ※区役員と利根川南部地域住民による検討会を開催

一定の意見集約には至らず、地元意見の大筋が決まったらそれに従う。

仮に学校が統合された場合には、スクールバスの運行及び運行時間帯などに最大限の配慮を要望する。

⇒学校統合に関して賛否は分かれるものの、「統合やむなし」の声が多いようだ。

2 出席委員の意見（前回会議結果及び前述の行政区住民の意見等を受けて）

学校の存続を望む意見

○地域のさらなる活性化には、小学校の有無が重要である。人を呼ぶためには学校は必要であるため、できる方策を試みてから結論を出すべきだ。

○少人数の中で教育を受けた子どもが大きな集団に入って落ちこぼれ、萎縮することは、元の集団の大小には関係ない。大人数の中で埋もれるより、一人一人の個性を育てることが大切だ。

○『競争心』を育むことは、高度経済成長期に復興のために重視されたもので、このような教育方針が現在でも変わっていないことが疑問だ。

○少人数による教育の中で、個性を大事にすること、協力し合うこと、コミュニケーション能力など心や精神面を学び、社会でも精神的に安定し強く生きていける。

○学校の存続に向けて何も手を打たないのはダメだ。現実的な問題として捉え手段を模索して欲しい。

具体的には、①他校の子どもたちとの合同授業や合同運動会、②利根川左岸の境島村の子どもをスクールバスで境島小学校に通学させる、など学校を統合するより合理的な方法を提案する。

○土地利用上の規制緩和などに時間をかけて尽力し、その結果を見てから学校の統合に向けて検討し、着手すべきだ。

○境地区だけが人口減少し全体的に元気がない。地域の発展には、市街化調整区域の見直しが大前提にある。

○保護者の中には、子どもに大人数の中で教育を受けさせたい人もいる。その対応としては、通学区域の弾力的な運用が考えられる。

⇔通学区域の弾力的な運用を認めると、大人数での教育を希望する家庭は子どもを他校に就学させ、境島小学校の小規模化が加速してしまう。

- この地域に人口が増えないのは、人口を増やさないための都市計画法や農業振興地域の整備に関する法律による規制に原因がある。法規制の見直しを図り、道路、下水道等のインフラ整備の推進を強く求める。
- 今すぐに行える方法としては、例えば、通学区域の弾力的な運用により境島小学校に他の地域から児童を受け入れること、子育てアパートの建設、この地域で子育てをする人への支援、建物改修に対する補助などが考えられる。

学校の統合を望む意見

- 境島小学校の教育は、昔から継続的に質は高いが、少人数による教育にも問題はあつた。多人数での授業、チームプレー、合唱・合奏などを知らずに成長することになる。
- 過去にこの地域の面的整備等を検討してきたが、何もやれなかつたという自責の念があつた。これから地域の整備をして人口を増加できるのか、今からで間に合うのか危惧している。
- 少人数による教育は先生によく教えてもらえるが、人口減少という時代の流れの中で、境島小学校だけが特別な事情を認めてもらい存続できるか疑問だ。
- 成長著しい6年間、子どもたちの伸びる可能性が制限され、持てる技量に合つた教育を提供できているのか疑問だ。
- 学力の向上は重要だが、人と交われることも大切だ。互いに協調しながら何かを生み出すことを学び、実践することが大切だ。その中で社会性や協調性を養い、ルールを守り、競争し、個性を認め合うことができる。今のままであつた、勉強以外の部分が欠落した人を作り出してしまふ。
- 学校が統合された時の保護者の負担はどうなるのか心配だが、学校は無くても地域は生きると思ふ。
- 現在は「学び合い」が重視され、他人の意見を聞き、切磋琢磨することが求められている。同級生がいないこと少ないことは、よい成長を望めない。
- 学校は学問以外のことも学ぶところ、切磋琢磨し心を成長させることを望む。中学校・高校と進学する過程でいろいろな人と交わり成長し、その中で個性を発揮してもらいたい。
- 少人数のクラスだと、コミュニケーション能力に関しては、言わなくても分かつてもらえる状況にあり、(大人数の)中学校に進学した際に不安が残る。
- クラスの子どもが休んだ場合、児童1人という状況でマンツーマンの授業になつてしまふ、子どもも疲れてしまふ。
- 少人数による教育という状況では、今後も先生を適正に配置していただけるのか心配だ。
- 現実問題として、子どもたちは人として集団で生活をしなければならない。少人数での学校生活では不安だ。
- 子どもはもまれて強くなり、肌で感じ、与えられた環境で学び、いろいろな考え方に順応していくものだ。